



平成 21 年 3 月 23 日

各 位

会社名 富士エレクトロニクス株式会社
代表者名 取締役社長 息栖 清
(コード番号 9883 東証第一部)
問合せ先 専務取締役管理部門担当
兼経理部長 木下 晴夫
(TEL 03 - 3814 - 1200)

平成 21 年 2 月期業績予想の修正について

最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 10 月 7 日に発表しました平成 21 年 2 月期業績予想に関して、下記の通り修正致します。

記

1. 平成 21 年 2 月期 通期業績予想の修正

(1)連結(平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	44,600	3,041	3,381	1,975
今回修正予想 (B)	40,590	2,559	2,621	1,296
増減額 (B-A)	△4,010	△482	△760	△679
増減率 (%)	△9.0	△15.8	△22.5	△34.4
(ご参考)前期実績 平成 20 年 2 月期	44,150	2,979	3,072	1,501

(2)単体(平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	36,000	2,559	2,942	1,727
今回修正予想 (B)	32,468	2,118	2,244	1,004
増減額 (B-A)	△3,532	△441	△698	△723
増減率 (%)	△9.8	△17.2	△23.7	△41.8
(ご参考)前期実績 平成 20 年 2 月期	40,061	2,705	2,935	1,717

2. 修正理由

世界経済は、昨年後半の米国金融市場の混乱以降、急激な景気後退局面となり、わが国経済も業種を問わず厳しい事業環境に直面しております。

このような状況の中で、当社グループは、業績の太宗を占める単体において中間決算時に下期も堅調な推移と予想したデジカメやオーディオなど民生機器向けの案件が秋口から大幅な生産調整に入り、また主力の計測器やFA機器など産業機器向け、大型コンピュータなど情報機器向けなども想定以上に受注が落ち込み、売上が予想より10%近く減少しました。加えて、子会社株式の減損処理1億75百万円などを特別損失として計上、および繰延税金資産の見直しにより当期純利益が予想より大幅に減少したため、通期単体業績予想の修正を行います。

連結業績予想については、単体の業績予想修正に伴い修正をするものであります。

※ 上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上